

## 2024年度 学校関係者評価委員会 開催記録

開催日時 2024年6月10日(月) 14:00~16:00

開催場所 専門学校文化デザイナー学院 6階プレゼンテーションルーム

委員数 11名

出席委員 5名

株式会社光和印刷 制作部 部長 岡田 寛和

アセビデザイン 竹越 萌野(卒業生)

株式会社関根工務店 代表取締役 関根 貴雄

株式会社根本建築設計事務所 阿久津 裕司(卒業生)

株式会社 andHAND 建築設計事務所 代表取締役 飯島 洋省

学校職員出席 5名

学校法人リリー文化学園 本部長 渡邊 忠

専門学校文化デザイナー学院 学校長 荒井 真次

専門学校文化デザイナー学院 教務部長 川上 大輔

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 深谷 由貴

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 黒須 菜穂子

委員会次第

■校長挨拶

■2023年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

・企業・団体等 連携課題実施計画書

■報告事項

- ・2023年度活動報告資料

- ①委員名簿

- ②学校運営

- ③教育活動

- ④学修成果

- ⑤学生の受入れ募集

- ⑥社会貢献・地域貢献

- ・職業実践教育課程の基本情報について「様式4」

- (各委員会意見の活用状況・連携課題実施報告書)

- ・各委員会 開催記録の報告について

- ・「2024年2月3日・10日 教育課程編成委員会」

■学校評価（2022年度）の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■授業見学

■2023年度自己点検・自己評価報告書

■協議事項

- ・評価項目に関する評価

- ①教育理念・目標

- ②学校運営

- ③教育活動

- ④学修成果

- ⑤学生支援

- ⑥教育環境

- ⑦学生の受入れ募集

- ⑧財務

- ⑨法令等の遵守

- ⑩社会貢献・地域貢献

- ⑪国際交流

## ■本部長挨拶

### (委員会の開催)

荒井校長より挨拶。

## ■報告事項

2023年度修了制作展、2023年度の活動報告、職業実践専門課程の基本情報「様式4」について、前回委員会の開催記録・活用状況、前回の学校評価結果等を川上教務部長より報告。

## ■授業見学

各学科の授業を見学。見学後、各委員より意見をいただいた。

(岡田委員) WEBの授業の中で、印刷会社にデータを渡す際の注意点まで教えていた。実際にデータ不備でトラブルになる事もあるのでありがたい。

(竹越委員) 学生数が増えて、教室のレイアウトなど雰囲気も変わって、環境も良くなっていると感じられて良かった。

(関根委員) 広告プロモーションデザイン学科やファッションデザイン学科の授業は自分が学生の時には絶対になかった内容。毎年レベルアップしていて教える学校側も大変だと思う。AIやChatGPTなど色々出てくる中で法律は守らなければならない。今後も新しいもの、凄いものが出てくるだろう。新しいものをどのように導入していくかは難しい問題だと感じた。

(阿久津委員) 建築設計デザイン学科の学生数が広告やファッションに比べて少ない。分野の人気のありなしもあるので仕方ないと思うが、設計事務所や会社など学校から就職してもらって建築業界を盛り上げてほしいと思う。

(飯島委員) 少し建築は寂しいという印象を受けた。専門が建築なので、最初にPinterestから入っていくところに寂しさがある。今回見学したDIYの授業の給湯室であれば、ヒューマンスケールがあるので、手書きからものづくりに入ってもいいのではないかと感じた。

ファッションと広告は活動的で良かった。ファッションの授業で、もう少し作業スペースを用意してあげた方が良くはないか。創作活動をしているのに一人あたりのスペースが60cmくらいしかない。もう少し広がりをもって活動ができるようにしてあげてほしい。広告の授業はモニターを見ながら授業をしていて空間は良いと思うが、やはり制作に関わる空間としてはもう少し創作活動の意欲が湧くようなスペース作りという部分で、用意してあげてもいいのではないかと感じた。

## ■協議事項

昨年度の自己点検・自己評価、今後の改善方策等について川上教務部長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

## 評価基準1 教育理念・目的

### ○評価表より委員意見

(関根委員) 学生や保護者にも学校の理念・将来構想が周知徹底出来れば更にいいと感じた。

## 評価基準2 学校運営

### ○評価表より委員意見

(関根委員) 年々コンプライアンスに対して世の中の目が厳しくなっているので、十分気を付けてほしい。

(飯島委員) 建築設計デザイン学科の魅力発掘、PR、カリキュラムと学生数がリンクするような結果に繋がる活動になると良いと思う。

## 評価基準3 教育活動

### ○評価表より委員意見

(岡田委員) AI等、技術の進歩が早いので、学生のうちに慣れておくと受け入れる会社も大きなメリットがあると思う。講師会や講師の入れ替えによって教える側のレベルアップが図られている。また、データを作る際、印刷会社へ出稿する際の注意点を授業で説明していた。実際の仕事を想定した授業になっている。

(竹越委員) 現役で仕事をしている講師だからこそ、時代に合った授業内容で良いと感じた。最先端の技術は現場よりむしろ学校の方が早いのではないかと感じる事さえある。また、WEBデザインの授業はコーディング、フロントエンドではなく、デザインの方でXDとかFigma等アプリの使い方などもっと充実しても良いのではないかと思った。

(関根委員) 生成AIなど世の中の時代の変化が本当に早くなっている。環境の変化には迅速に対応出来るようにすることも重要になってくる。

(阿久津委員) 建築業界も AI が仕事上必要になってくる時代になるので、使い方を学ぶ事は良い。

(飯島委員) 教員の人材育成の内容については資料だけでは見えにくい部分もあると感じた。

## 評価基準4 修学成果

### ○評価表より委員意見

(岡田委員) 同窓会を4年に一度開催し、卒業生とのコミュニケーションを図っている。授業へのアンケート等、卒業生から意見を集めると社会に出てから感じたギャップや伸ばした方が良い内容などが分かるかもしれない。

(竹越委員) 同窓会など卒業生の交流をする場、卒業後の活動を知る場がある事がとても良い。

(関根委員) 自己アピール力、相手に伝える力をアップさせる事が出来れば、学生にとって就職してからも有利になると思う。

(飯島委員) 普段は元気なのかもしれないが、学生の少し大人しく控えめな印象を受けた。

## 評価基準5 学生支援

### ○評価表より委員意見

(阿久津委員) 就職後の企業から離職者が少なくなるように声かけなどがあると、就職先の企業への印象が良いと思う。

## 評価基準6 教育環境

### ○評価表より委員意見

(竹越委員) 教室数も増え、授業もしやすくなったのではないだろうか。

(飯島委員) 創作活動を触発するような施設環境整備をもう一押しあっても良いかと感じた。

## 評価基準7 学生の受け入れ募集

### ○評価表より委員意見

(竹越委員) 入学者が増えている事が素晴らしい事だと思う。

## 評価基準8 財務

### ○評価表より委員意見

委員意見なし

## 評価基準9 法令等の遵守

### ○評価表より委員意見

(岡田委員) 著作権等、年々難しく重要な問題になっていると思うので、オンライン学習後にレポート提出があるとのことだが、理解度についての後追いも重要になると思う。

(竹越委員) ホームページがSSL化されて良かったと思う。

(関根委員) 個人情報保護と著作権は将来就職してからも重要になるので、継続して教えてほしい。

(阿久津委員) 個人を守るための著作権を学ぶ機会があるのは良い。

## 評価基準10 社会貢献・地域貢献

### ○評価表より委員意見

(竹越委員) 地元の企業だけでなく、ラフォーレ原宿など都内の企業からも声がかかるのは学生にとっても良い刺激になると思う。

(阿久津委員) 水戸市のイベントに参加して地域と連携が取れ、水戸のまちなかに必要な学校となっていると感じた。

各評価項目の評価終了。

渡邊本部長より閉会挨拶。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

上記の通り確認する。

2024年6月30日

学校法人 リリー文化学園  
専門学校 文化デザイナー学院  
校長 荒井 真次

## 評価基準 1 教育理念・目的

- I 教育理念
- II 教育目標
- III 教育方針
- IV 年度目標

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

### 今後の改善方策

③国の修学支援制度の拡充が2024年度より正式にスタートすることとなり、新たに理工系学生を対象とした第IV区分が設けられた。事前のアンケートでは本校の建築設計デザイン学科が工業分野に該当することを回答したが、専門課程の分野に基づく判断のため、現在認可をとっている産業デザイン専門課程は非該当との判断だった。そこで、県と相談の上、学則を変更し分野を工業変更することとした。また、他学科に関しても専門学校の8つの分野に該当する形が望ましいとの判断から文化・教養分野に変更することとした。

### 委員特記事項

(関根委員) 学生や保護者にも学校の理念・将来構想が周知徹底出来れば更にいいと感じた。



## 評価基準 2 学校運営

- I 学校運営の方針
- II 授業計画
- III 学校組織のありかた
- IV 意志決定のプロセス
- V 業務の効率化

評価項目		学校自己評価				委員評価			
		4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切	4	3	2	1
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	④	3	2	1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④	3	2	1	④	3	2	1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	④	3	2	1	④	3	2	1

### 課題

- ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ④人事、給与に関する規程等は整備されているか
- ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られている

### 今後の改善方策

- ③④2022年度も改定した就業規則・諸規定を運用し常勤職員、非常勤講師ともに労務が適正に管理された。常勤の教務職員についてもほぼ定刻退勤を実行でき、代休取得も計画通りに進んだ。
- ⑧2023年度後期より、学生の出席管理を電子化した。従前では点呼の上、出席簿に手書きしていた方法から、ビーコンを使いスマートフォンのアプリによる出席の登録と集計ができるようになった。改善点を修正しながら2024年度も運用を継続することとしている。

## 委員特記事項

---

(関根委員)年々コンプライアンスに対して世の中の目が厳しくなっているので、十分気を付けてほしい。

---

(飯島委員)建築設計デザイン学科の魅力発掘、PR、カリキュラムと学生数がリンクするような結果に繋がる活動になると良いと思う。

---

---

---

## 評価基準 3 教育活動

- I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
- II 各学科の概要
- III カリキュラム
- IV 単位認定・成績評価の考え方
- V 資格取得・国家資格に向けた授業
- VI 業界との協力体制
- VII 企業・団体等連携授業
- VIII 業界からの授業成果に関する協力
- IX 修了制作展 作品の展示
- X 実践的な職業教育(インターンシップ)

評価項目		学校自己評価	委員評価			
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	4	3	2	1
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携による、インターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	④	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	④	3	2	1

11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
15	修了制作展において課題の方向性は合っているか。また、プレゼンテーションは適切に行われているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか

### 今後の改善方策

⑬ 2023年度は生成AIの使用に関する基本方針を策定し、2024年度から運用を開始している。それに合わせて、講師会でリクルート協力のもと生成AIに関する研修会を行った。生成AIに関しては、学習の中で情報収集や試行錯誤を増やすためのツールとして活用し、AIだけによって作られた作品は評価の対象としないこととしている。また、2024年度の講師会の中では、具体的に授業での活用をするための研修を実施する予定である。

### 委員特記事項

(岡田委員) AI等、技術の進歩が早いので、学生のうちに慣れておくと受け入れる会社も大きなメリットがあると思う。

講師会や講師の入れ替えによって教える側のレベルアップが図られている。また、データを作る際、印刷会社へ

出稿する際の注意点を授業で説明していた。実際の仕事を想定した授業になっている。

(竹越委員) 現役で仕事をしている講師だからこそ、時代に合った授業内容で良いと感じた。最先端の技術は現場より

むしろ学校の方が早いのではないかと感じる事さえある。また、WEBデザインの授業はコーディング、フロントエンドではなく、

デザインの方でXDとかFigma等アプリの使い方などもっと充実しても良いのではないかと思った。

(関根委員) 生成AIなど世の中の時代の変化が本当に早くなっている。環境の変化には迅速に対応出来るようにすることも

重要になってくる。

(阿久津委員) 建築業界もAIが仕事上必要になってくる時代になるので、使い方を学ぶ事は良い。

(飯島委員) 教員の人材育成の内容については資料だけでは見えにくい部分もあると感じた。

## 評価基準 4 修学成果

- I 就職指導の全体方針
- II 就職目標設定と27年度報告
- III 就職に対する本校の特徴
- IV 就職指導体制

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切	
1 在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
2 就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

- ① 在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか
- ⑤ 退学率の低減が図られているか

### 今後の改善方策

- ① 2022年度よりスタートした自己発見プログラムでは自己の本当にやりたいことを目標とし、日々の授業の意欲向上に結びつけてきた。2024年度の卒業生ははじめて就職活動を迎える。就職活動においても、自己アピールにその成果が発揮されることを期待している。
- ⑤ 2023年度の退学率は3.9%だった。日々の生活指導や保護者との連携などの細やかな対応も含め、自己発見プログラムの定着が退学率の低減にもつながっている。

## 委員特記事項

---

(岡田委員)同窓会を4年に一度開催し、卒業生とのコミュニケーションを図っている。

---

授業へのアンケート等、卒業生から意見を集めると社会に出てから感じたギャップや伸ばした方が  
良い内容などが分かるかもしれない。

---

(竹越委員)同窓会など卒業生の交流をする場、卒業後の活動を知る場がある事がとても良い。

---

(関根委員)自己アピール力、相手に伝える力をアップさせる事が出来れば、学生にとって  
就職してからも有利になると思う。

---

(飯島委員)普段は元気なのかもしれないが、学生の少し大人しく控えめな印象を受けた。

---

## 評価基準 5 学生支援

### I 学生支援体制

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学生相談に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 学生にたいする経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5 学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6 保護者と適切に連動しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7 卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

#### 課題

- ⑤ 学生の生活支援に対する支援体制は行われているか
- ⑦ 卒業生への支援体制はあるか

#### 今後の改善方策

- ③⑤ 学費猶予制度は2020年以降継続しており、貸与奨学金の利用者には学費の1/4分割、給付奨学金受給者には、学費を減免した残額の請求の対応を行っている。入学時に限らず、在学中の経済的な支援となっている。また、飲料や教材など学生へ無料配付している企業支援にも応募をしており、積極的に活用していきたい。
- ⑦ 卒業時の就職未定者に対しては、毎月の連絡・面談と求人紹介や履歴書添削などの就職支援を卒業後も継続している。

#### 委員特記事項

(阿久津委員) 就職後の企業から離職者が少なくなるように声かけなどがあると、

就職先の企業への印象が良いと思う。

## 評価基準 6 教育環境

- I 施設・設備状況
- II 防災・災害に対する対応
- III 保険への加入

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切
1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3 防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

- ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか
- ③防災に対する体制は整備されているか

### 今後の改善方策

- ①2022年度より継続して検討していた教室環境については、2024年度入学生の募集状況を鑑み、テナントとして貸し出していた4Fの一部教室を2024年度より授業用教室として利用することで合意した。設備工事も実施し、新たにL401教室、L402教室として2教室を追加した。
- ③防災面の整備として6F、7Fの界壁工事を実施し、全館2方向避難ができる校舎に整備が完了した。

### 委員特記事項

(竹越委員)教室数も増え、授業もしやすくなったのではないだろうか。

(飯島委員)創作活動を触発するような施設環境整備をもう一押しあっても良いかと感じた。



## 評価基準 7 学生の受け入れ募集

- I 募集の動き
- II 広報媒体
- III 募集体制
- IV 学費

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5 高等学校への直接訪問を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

- ① 学生募集活動は適正に行われているか
- ③ 学納金は妥当なものとなっているか

### 今後の改善方策

① 2023年度募集も平均値を維持できた。建築設計デザイン学科は新たな入試として建築士特待生推薦制度を設け入学者増につながった。2024年度は入試対策講座を周知して入学者を増やしていく計画である。また、高校学校での進路ガイダンスの予約の取得方法の変更やSNSを用いたジオターゲティング広告も継続する。

### 委員特記事項

(竹越委員) 入学者が増えている事が素晴らしい事だと思う。

## 評価基準 8 財務

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか

### 今後の改善方策

①2023年度は在校生数が200名を超え、本校の財政面は日々の経費削減と合わせて安定した1年であった。多くの学生を迎え入れたことで、中長期的な安定性がさらに向上した。また、2023年度募集は18歳人口が底となる。募集活動ではキャリアアップデザイン学科の入学生を迎え入れ新たな財源の確保ができた。運営面では経費削減と退学率の低減に努めていきたい。また、補助金などの公的な支援の活用にも取り組んでいきたい。

### 委員特記事項

---



---



---



---



---

## 評価基準 9 法令等の遵守

I 個人情報の保護

II 学校自己点検・自己評価

III 学生作品と著作権の問題

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	自己評価の結果を公開しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	著作権について学生は理解しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

### 課題

- ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- ⑤著作権について学生は理解しているか

### 今後の改善方策

- ②メールサーバーの移行を行ったことにより、ホームページがSSL化した。体験入学会申込者等の外部の個人情報の保守性が高まった。
- ⑤2023年6月19(月)に文化庁制作の著作権セミナーでオンライン学習を行い、AIと著作権の関係を中心に学んだ。

### 委員特記事項

(岡田委員) 著作権等、年々難しく重要な問題になっていると思うので、オンライン学習後に

レポート提出があるとのことだが、理解度についての後追いも重要になると思う。

(竹越委員) ホームページがSSL化されて良かったと思う。

(関根委員) 個人情報保護と著作権は将来就職してからも重要になるので、継続して教えてほしい。

(阿久津委員) 個人を守るための著作権を学ぶ機会があるのは良い。

## 評価基準 10 社会貢献・地域貢献

I 企業・団体等連携の成果

II 企業・団体等連携の一覧

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3 取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

### 課題

- ② 学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか
- ④ 企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか

### 今後の改善方策

- ② 水戸市教育委員会が主催する水戸市内の小中学生の学習プログラムである、次世代エキスパート事業へのボランティアに学生が参加した。修了制作で取り組んだ梅染めの課題の経験を活かし、染色体験やデザイン指導、発表指導のサポートを行った。
- ④ 修了制作で広告プロモーションデザイン学科1年生が常陸大宮市に提案した駅周辺のPRキャラクター制作では、好評をいただき工事用の案内看板として実用化された。

### 委員特記事項

(竹越委員) 地元の企業だけでなく、ラフォーレ原宿など都内の企業からも声がかかるのは学生にとっても

良い刺激になると思う。

(阿久津委員) 水戸市のイベントに参加して地域と連携が取れ、水戸のまちなかに必要な学校となっている。

2024 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
<p>授業見学後の委員意見</p>	<p>◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：</p>
<p>①(岡田委員)WEBの授業の中で、印刷会社にデータを渡す際の注意点まで教えていた。実際にデータ不備でトラブルになる事もあるのでありがたい。</p> <p>②(竹越委員)学生数が増えて、教室のレイアウトなど雰囲気も変わって、環境も良くなっていると感じられて良かった。</p> <p>③(関根委員)広告プロモーションデザイン学科やファッションデザイン学科の授業は自分が学生の時には絶対になかった内容。毎年レベルアップして教えている学校側も大変だと思う。AI や ChatGPT など色々出てくる中で法律は守らなければならない。今後も新しいもの、凄いものが出てくるだろう。新しいものをどのように導入していくかは難しい問題だと感じた。</p> <p>④(阿久津委員)建築設計デザイン学科の学生数が広告やファッションに比べて少ない。分野の人気のありなしもあるので仕方ないとは思いますが、設計事務所や会社など学校から就職してもらって建築業界を盛り上げてほしいと思う。</p> <p>⑤(飯島委員)少し建築は寂しいという印象を受けた。専門が建築なので、最初の範囲が pinterest から入っていくところの寂しさがある。今回見学した DIY の授業の給湯室であれば、ヒューマンスケールがあるので、手書きからものづくりに入ってもいいのではないかと感じた。ファッションと広告は活動的で良かった。ファッションの授業で、もう少し作業スペースを用意してあげた方が良くはないか。創作活動をしているのに一人あたりのスペースが 60 cmくらいしかない。もう少し広がりをもって</p>	<p>① 広告プロモーションデザイン学科では全学年修了制作作品ポスターの印刷を業者に発注し、印刷用のデータ作成の方法を学んでいる。その他にも、冊子やキーホルダーなども扱い、自分が作ったデータが印刷されることが、正確なデータを作成するモチベーションにも繋がっている。</p> <p>② 使用する人数に合わせて教室環境を整えなくてはいけない反面、そうした機会によりよい環境を作ることも目指している。2023 年度は 4F に教室を 2 教室追加したが、1 室は映像撮影にも利用できるように合成用のグリーンバックを設けた。</p> <p>③ 教務職員はもちろん非常勤の講師陣も社会や学生が急速に変化する中、それに対応しなければならず大変であるが反面、今知りたと思うニーズにスピーディに対応し、学校として生成 AI の基本方針を定めたり、研修会を実施することが、教える側のモチベーションにもつながると感じる。また、こうして新しい情報をいち早く知ることができるのも教育の仕事の魅力であると考えている。</p> <p>④ 専門学校の分野の人気の社会環境によっても浮き沈みがあるが、建築・インテリアの分野は理工系として、国も人材の確保の動きがあり、追い風にして学生募集につなげたい。2024 年度入学生には建築士特待生として入学する学生もおり、高等学校との新しいつながりにもなると考えている。</p> <p>⑤ ヒューマンスケールやイメージを形にすることは重要であると捉えており、設備関係の寸法や仕上げ材を調べるために、Pinterest を利用していると考えている。AI やインターネットから得られる情報はますます進歩していく中で、どの部分を生かして自分らしいオリジナルなものを生み出していくということがますます大切になってくる。そうした中で、タブレットやパソコ</p>

活動ができるようにしてあげてほしい。広告の授業はモニターを見ながら授業をしていて空間は良いと思うが、やはり制作に関わる空間としてはもう少し創作活動の意欲が湧くようなスペース作りという部分で、用意してあげてもいいのではないかと感じた。

ンを使う方法もあるが、手で描くことが自由で豊かな発想や想像につながることもあるので、機器に頼りすぎず、人らしさを磨いていくことも求められると考えている。そういった面においては、校舎環境を創作活動がしやすい形に整えることも視野に入れていかなくてはならない。現在のカフェスペースは学生の要望もあり、学校として自習スペースとしても利用できる空間にリノベーションをした。また、近隣には水戸市民会館がオープンし、授業でも使用している。限られた校舎の中でも工夫をしていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 1 教育理念・目的</p>	<p>◆随時対応</p> <p>対象：全学科全学年</p> <p>授業：</p>
<p>①(関根委員) 学生や保護者にも学校の理念・将来構想が周知徹底出来れば更にいいと感じた。</p>	<p>① 学生に対しては、2024 年度からの生成 AI に関する考え方を始業式やオリエンテーションで示した。保護者に対しては、保護者説明会と毎年 2 月の修了制作展が学校の活動を把握できる機会になっている。学校の教育姿勢や活動内容を広く周知できる機会なので、指導には力を入れていきたい。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 2 学校運営</p>	<p>◆引き続き対応</p> <p>対象：学校運営・全学科全学年</p> <p>授業：</p>
<p>②(関根委員) 年々コンプライアンスに対して世の中の目が厳しくなっているので、十分気を付けてほしい。</p> <p>③(飯島委員) 建築設計デザイン学科の魅力発掘、PR、カリキュラムと学生数がリンクするような結果に繋がる活動になると良いと思う。</p>	<p>② 情報が容易に発信・拡散される時代であり、職員・学生・講師には、社会人・企業人としての情報モラルやあるべき姿を理解し行動することがますます大事だと感じている。情報教育や倫理教育の機会を設けることも検討していきたい。</p> <p>③ 魅力作りに関してはものづくり系の授業を取り入れ、他校にない特徴になってきている。カリキュラムに関しても 3 年間教育で修了制作をはじめとする地域連携による実践的な学びと資格対策講座を設け専門学校として業界のニーズに応える内容になっていると外部評価、自己評価ともに考えている。PR に関しては、競合校の実績が強く、高校生・保護者・高校教員の視点でどの部分が魅力になっていて、どの部分が弱みなのか見定めて方向性を調整することが学生数につながってくると思う。土浦工業高校の進路指導部兼建築学科の先生と面談し、本校の教育内容や就職実績、企業とのつながり等を説明する機会を設けた。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 3 教育活動</p>	<p>◆即対応</p> <p>対象：学校運営・講師</p> <p>授業：</p>
<p>④(岡田委員) AI 等、技術の進歩が早いので、学生のうちに慣れておくと受け入れる会社も大きなメリットがあると思う。講師会や講師の入れ替えによって教える側のレベルアップが図られている。また、データを作る際、印刷会社へ出稿する際の注意点を授業で説明していた。実際の仕事を想定した授業になっている。</p> <p>⑤(竹越委員) 現役で仕事をしている講師だからこそ、時代に合った授業内容で良いと感じた。最先端の技術は現場よりむしろ学校の方が早いのではないかと感じる事さえある。また、WEB デザインの授業はコーディング、フロントエンドではなく、デザインの方で XD とか Figma 等アプリの使い方などもっと充実しても良いのではないかと思った。</p> <p>⑥ (関根委員) 生成 AI など世の中の時代の変化が本当に早くなっている。環境の変化には迅速に対応出来るようにすることも重要になってくる。</p> <p>⑦(阿久津委員) 建築業界も AI が仕事上必要になってくる時代になるので、使い方を学ぶ事は良い。</p> <p>⑧(飯島委員) 教員の人材育成の内容については資料だけでは見えにくい部分もあると感じた。</p>	<p>④専門学校としては、卒業後の業界ニーズを迅速にキャッチしカリキュラムに反映することが求められる。AI の技術に関しては、これまでの職業の在り方に関しても大きな変化があることが推察されるものであり、技術の理解を図るために講師会にて研修会を実施した。さらに学生指導や授業の中でどのように扱っていくかについても、講師を対象に研修を実施する予定であり、教える側のスキルアップが求められると捉えている。実務に即した授業を行うことは、職業教育を行う上では重要である。全てを網羅することは難しい部分もあるので、大事なことを抑えられるよう運営を行っていく必要がある。</p> <p>⑤本校の教育的な魅力でもあり、対外的にも特徴となっていることは、ほとんどの講師が現役のプロクリエイターであることである。広報段階から考えると常に5年、10 年先を見込んでカリキュラムを構築し、学生募集していかなくてはならない。プロ講師とは、モチベーションの高め方や学生の価値観を理解するための研修を実施し、教えることが初めてであることが多い講師にも対応している。WEB デザインの学習内容については時代の変化に合わせて定期的に見直しを行っていて、Adobe Dreamweaver をアプリケーションとして使用している。Adobe CC にバージョンアップ後は、XD を自主的に使っている学生もいるため、適宜見直しをしていきたい。</p> <p>⑥⑦新しい技術の取捨選択は難しい部分でもあるので、業界からの情報収集は大切である。学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会をはじめ、求人企業や業界団体との情報交換の機会は大切にしていきたい。</p> <p>⑦ 資料では教職員に対する研修会の記録が中心となっているため、研修内容に関する資料を提示するなど検討していきたい。</p>



学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準4 修学成果</p>	<p>◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：就職活動に関わる授業</p>
<p>⑨(岡田委員)同窓会を4年に一度開催し、卒業生とのコミュニケーションを図っている。授業へのアンケート等、卒業生から意見を集めると社会に出てから感じたギャップや伸ばした方が良い内容などが分かるかもしれない。</p> <p>⑩(竹越委員)同窓会など卒業生の交流をする場、卒業後の活動を知る場がある事がとても良い。</p> <p>⑪(関根委員)自己アピール力、相手に伝える力をアップさせる事が出来れば、学生にとって就職してからも有利になると思う。</p> <p>⑫(飯島委員)普段は元気なのかもしれないが、学生の少し大人しく控えめな印象を受けた。</p>	<p>⑨⑩卒業生との接点として継続的に行っていた同窓会は情報交換の場となっており、貴重な機会である。4年に一度のタイミングとしているが、水戸まちなかフェスティバルがコロナ明けに再び開催されたことに伴い、毎年開催を検討している。また、卒業後の状況調査をすることで、カリキュラムの見直しや学校運営の改善点を見つけることにつながる可能性もあり、今後の内容を検討していきたい。</p> <p>⑪⑫インターネット上のつながりが友達だったり、対面のリアルな関係以外の人間関係が成立している学生の世代は、仲間意識、身内意識が強く一見すると大人しい印象に見えるかもしれない。就職活動の場面では、競争の中で自分をPRすることが求められる。しっかりと自分を伝えるためにも自分を理解することが大切であり、自己発見プログラムを通して、自己アピール力のアップも目指していきたい。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準5 学生支援</p>	<p>◆継続的に対応 対象：学校運営全学科全学年 授業：</p>
<p>⑬(阿久津委員)就職後の企業から離職者が少なくなるように声かけなどがあると、就職先の企業への印象が良いと思う。</p>	<p>⑬企業にとっては、新卒者を雇用する上でのリスクが早期離職であると考えている。学校としても同窓会の開催周期を見直すなどして、卒業生との接点を増やすことができると、卒業後のサポートしやすくなるかもしれないし、企業側の安心にもつながると感じる。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準 6 教育環境</p>	<p>◆継続的に対応 対象：学校 授業：</p>
<p>⑭(竹越委員) 教室数も増え、授業もしやすくなったのではないだろうか。</p> <p>⑮(飯島委員) 創作活動を触発するような施設環境整備をもう一押しあっても良いかと感じた。</p>	<p>⑭⑮近年の在籍学生数の増加とともに、授業の内容が充実すればするほど学科や人数により多様なニーズが生まれ、喜ばしいことだが教室環境の点からすると運営が難しい状況でもある。</p> <p>学内でできることの最善を考えつつ、学内の環境もうまく利用しつつ改善を試みていきたい。DIYで給排水設備のある作業室を改修している。今後も徐々に進める。</p>
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準 7 学生の受け入れ募集</p>	<p>◆継続的に対応 対象：学校 授業：</p>
<p>⑯(竹越委員) 入学者が増えてる事が素晴らしい事だと思う。</p>	<p>⑯学生募集は毎年状況が変化するので、高校訪問、体験入学会をはじめとする様々な広報活動を着実に継続しつつ、高校生の状況にはアンテナを張り状況の変化を敏感に察知していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準 8 財務</p>	<p>◆継続的に対応 対象:全学科全学年 授業:</p>
<p>委員意見なし</p>	
学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目 評価基準 9 法令等の遵守</p>	<p>◆継続的に対応 対象:全学科全学年 授業:</p>
<p>⑰(岡田委員)著作権等、年々難しく重要な問題になっていると思うので、オンライン学習後にレポート提出があるとのことだが、理解度についての後追いも重要になると思う。</p> <p>⑱(竹越委員)ホームページがSSL化されて良かったと思う。</p> <p>⑲(関根委員)個人情報保護と著作権は将来就職してからも重要になるので、継続して教えてほしい。</p> <p>⑳(阿久津委員)個人を守るための著作権を学ぶ機会があるのは良い。</p>	<p>⑰⑱⑳AI 技術の進歩と社会への浸透に伴い、著作権や個人情報の取扱いに関しては、身に付けるべき知識が変わってくると思う。知識としての理解度を確認することや、実際に著作物や個人情報を授業の内外、就職後の仕事で適切に扱える実務的な能力も求められるため検討していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象：学校</p> <p>授業：</p>
<p>①(竹越委員) 地元の企業だけでなく、ラフォーレ原宿など都内の企業からも声がかかるのは学生にとっても良い刺激になると思う。</p> <p>②(阿久津委員) 水戸市のイベントに参加して地域と連携が取れ、水戸のまちなかに必要な学校となっていると感じた。</p>	<p>①学校としても学生の学びの場が地元にとどまらず、東京に広がったことは嬉しく思う。カリキュラムの調整や人的負担も考慮する必要があるため、学習効果につながるよう継続していきたい。</p> <p>②街との連携はまちなかの学校として、社会貢献の意味も含めて適切に図っていきたい。コロナ明け以降、様々なイベントが企画されている。ボランティアを推奨し様々な活動を通して学生の成長につながることは喜ばしいことである。</p>